

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	高山市	学校名	岐阜県立高山工業高等学校			
校長名	藤田正昭	対象学年	3年生	人数	匠16、産業現場実習4人	
活動名	地域の資源を活用した学習活動を教育課程に取り入れ、地域産業を支える人材育成の取り組み（学校設定科目「匠」と産業現場実習）		時間数 (週当たり)	匠 2 時間 産業現場実習 6 日	継続年数	匠 11 年 産業現場実習 27 年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [飛騨の匠] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [飛騨高山の観光資源] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [建築、木工、工芸] 5 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [] 6 その他（ ） []					
複数年継続するための工夫改善	<p>地域の資源を活用した学習活動を教育課程に取り入れ、地域産業を支える人材育成の取組として、本校建築インテリア科の開設する2つの科目について実践報告します。</p> <p>学校設定科目「匠」は建築インテリア科の選択科目であり、平成17年度から開設しており今年で11年目となります。授業には飛騨地域にある様々な文化的遺産の見学や、伝統を継承する外部講師による技能指導等を取り入れ、生徒が実際の技術、技能に触れ、自ら興味関心を持って学習する活動を充実しています。「飛騨の匠」の技能や技術を伝承する意欲や態度を持った技術者を継続して育成できるように毎年学習成果を蓄積しています。</p> <p>産業現場実習は、建築インテリア科の生徒が地域の家具メーカーに直接出向き、実際の技術者から指導を受ける実習活動で、本年度で27年目になります。工業の総合的な学習の時間「課題研究」に位置付け、6日間企業の現場において、実践的な技能、技術を学習します。専門的な内容を企業と学校で交互に学ぶデュアルシステムの学習形態を取ることができ、実際に卒業後に実習をした企業に就職する生徒もいます。</p>					
1 ねらい	<p>高山工業高校は平成28年度に「魅力ある高校づくり推進事業」の指定を受け、平成28年度から30年度までの3年間、様々な学習成果を検証し、生徒の能力を引き出すことができる「魅力ある高校づくり」に取り組んでいます。</p> <p>本校は、飛騨地区唯一の工業高校として地域に根ざした魅力ある高校を目指し、ものづくりを生かした地域連携活動による課題解決学習を推進しています。知・徳・体の調和のとれた個性豊かで明朗快活な人間性を育成するため、基礎的、基本的な学力や、コミュニケーション能力、問題解決能力を身に付けさせるとともに、勤労を尊ぶ態度や工業を学ぶことへの誇りと自信を持たせ、飛騨地区の将来を担うエンジニアリーダーを育成する教育活動の充実に取り組んでいます。</p> <p>今回実践報告する建築インテリア科の2つの科目は、平成19年に建築科とインテリア科が統合される以前からあり、今日まで継続している学習活動です。教育資源の変化に合わせて学習内容を改善し、以下の科目の目標を挙げて建築インテリア科の教育課程に位置付けて実践しています。</p>					

学校設定科目「匠」の目標

飛騨高山を中心とした伝統文化や伝統技術について基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育て、将来の「飛騨の匠」の伝承者を育てる。

産業現場実習（課題研究）の目標

工業に関する課題を設定し、その課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

産業現場実習は、産業現場における体験学習を通して、勤労の厳しさや尊さ、ものを作り上げるための苦労や感動、責任の重さなどを体感させるとともに、家具製造に関連する知識と技術を総合的、発展的に習得させる。

2 活動の概要

学校設定科目「匠」は、「飛騨の匠」について学習することによって、飛騨が豊かな森林資源と歴史的な背景により建築技術を発展させたことや、「飛騨高山」や「飛騨高山の家具」のブランドについて理解し、さらに地元の職人から直接技能を学んでいます。平成28年度は以下に挙げる様々な校外学習や実習を実践しています。

(1) 飛騨の匠発祥の地の見学

飛騨の匠発祥の地の伝承が残る飛騨市河合町を訪れ、飛騨地方に暮らす人々が古くから森林資源を生かした優れた技術や、技能を持っていたことを学習します。



(2) 高山祭屋台、古い町並みの見学

国の重要有形民俗文化財・重要無形民俗文化財となっている高山祭の屋台を見学し、それらの祭り屋台を維持管理する古い町並みを見学することによって、江戸時代に、町人文化によって伝統的な匠の文化や技術が守られ発展したことを学習します。

(3) 高山陣屋の見学

全国で唯一現存する陣屋「高山陣屋」を見学し、江戸時代の建築技術や意匠を学ぶとともに、幕府の直轄地を背景とした飛騨の歴史を学習します。



(4) 飛騨民俗村飛騨の里の見学

合掌造りや茅葺き屋根の民家といった、飛騨の農村の建築物を見学することによって、豪華な町人文化とは異なる、飛騨の農村文化や建築様式を学習します。

(5) 干支の木彫り実習

干支の木彫りを行う職人から直接指導を受け、木彫りによって置物を制作します。



(6) 匠に関わる調査研究

「飛騨の匠」をキーワードにグループごとに調査テーマを決め、調査研究してきた内容をレポートにまとめ発表します。

生徒は毎回学習ノートを作成し提出するとともに、年間を通じて調査・研究したことを1冊のレポートにしまとめます。学習成果をポートフォリオ化することによって、自身が学んだ内容を振り返るとともに、次年度の履修者に伝えられるようにしています。



生徒の感想からは、この授業を通じて飛騨の匠の技術の高度さや地域の伝統文化に触れることによって、それらが古くから伝承されていることに気付き、文化や伝統を誇りに思い、次の世代に伝える大切さを学んだことを見て取ることができます。



課題研究は、地域の課題を工業の技術で解決したり、飛騨の文化や伝統を生かした製品開発したりするなど、地域を題材にして地域と連携する活動に積極的に取り組んでいます。

建築インテリア科は課題研究の学習内容の4項目の、(1)作品制作、(2)調査、研究、実験、(3)産業現場等における実習、(4)職業資格の取得のうち、生徒の興味・関心、進路希望に応じて(3)の項目として産業現場実習を実施しています。平成28年度は、地域の企業、飛騨産業株式会社、柏木工株式会社、日進木工株式会社、株式会社シラカワで実施しました。

(1) 課題研究テーマを設定し、希望生徒を決定します。

(2) 生徒と保護者に対してガイダンスを実施します。

(3) 産業現場実習はそれぞれの企業において、7月から10月の間に6日間実施し、それぞれの企業で、デザイン、設計、加工、組立、仕上げまで、企業の技術者から指導を受けて作品を制作します。

(4) 完成した作品は飛騨・世界生活文化センターで開催された「飛騨・高山秋の文化・産業フェスティバル」で企業の製品に並んで展示して、一般に学習成果を発表しました。



産業現場実習を行った生徒は、企業の技術者からの指導を受けることによって、学校では学習しない知識や技術を習得します。そこでは、コミュニケーション能力の大切さ、技術者として必要な努力やこだわりを学びながら作品を完成させ達成感を感じています。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

建築インテリア科の生徒は、専門的な科目で学習した知識や技術を活用して、部活動やボランティアとし地域の課題解決を図る様々な活動に積極的に取り組んでいます。

(1) 高工サテライトキャンパス 飛驒の匠工房の商品開発

飛驒産のヒノキや家具で用いられる木材の廃材を利用し様々な商品開発を行い販売しています。飛驒の春慶塗と美濃和紙を用いた行灯は、購入者に大変好評です。千鳥格子の技術を用いた鍋敷きは、本校を訪問した中国の学生にも組み立てに取り組んでもらいました。



(2) 木工による地域の課題解決

平成24年度から平成27年度の4年間、東日本大震災で被災した南三陸町、石巻市、南相馬市の幼稚園等に直接出向いて、子供たちが笑顔を取り戻して遊ぶ手づくりの木製遊具を大小合わせて20点以上寄付する活動を行いました。

平成28年度は高山本町会商店振興組合へ、木の温かみを感じ訪れる人が賑わいを感じるベンチを制作、設置しました。また、広島から高山市に贈られた「被爆アオギリ」の説明看板を制作し設置しました。さらに、小学生の体験教室サポートとして、高山中央ロータリークラブが8月に開催した小学生を対象とした「削り華」（かんなくず）を利用したフラワーアート作成教室では、スタッフとして事前研修を受けて、参加した市内の親子約100人のサポートを行いました。

4 活動を通しての児童生徒の変容

飛驒地区で生活してきた生徒も工業の専門的な観点から市内の様々な観光資源を学習することは少ないと思います。実際の体験を通して「飛驒の匠」に関する知識や地域の文化に触れ、伝統産業を工業技術者の観点から学習する機会になっています。

これらの授業を受けた生徒は建築インテリア科で学んだことを地域の課題解決につなげる活動にも積極的に参加しており、地域のものづくりによる課題解決を通して積極的に社会に貢献する態度を学び、ものづくりによる交流を通してコミュニケーション能力を伸ばすことができていると考えます。

建築インテリア科の生徒の飛驒地区の企業への就職割合は、課題研究の履修が始まった平成4年度頃でも80%程度ありました。平成27年度の卒業生についても、就職者24名中20名が飛驒地区に就職しており、毎年8割程度が地域の企業に就職し地域産業、地域社会を支えています。

これからも工業の各学科の専門性を生かし、地域の資源を活用した学習活動を積極的に取り入れ、飛驒の匠の技と心を継承する人材育成の活動を充実していきます。